

【情報解禁日時】
6月16日(金)18:00

25th
NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO
ANNIVERSARY



新国立劇場

PRESS RELEASE

＜ギャラリープロジェクト＞

芸術監督公開トークシリーズ Vol.4

—舞台芸術の入口をつくる～開かれた公共劇場をめざして—



【登壇者】

白井晃＜世田谷パブリックシアター芸術監督＞

近藤良平＜彩の国さいたま芸術劇場芸術監督＞

長塚圭史＜KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督＞

小川絵梨子＜新国立劇場演劇芸術監督＞

ゲスト：立山ひろみ＜宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター＞

【進行役】大堀久美子＜編集者・ライター＞

2023年7月16日(日)17:00～ 新国立劇場 小劇場

主催・企画制作：新国立劇場

＜本件に関するお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部演劇 広報担当:杉田

TEL:03-5352-5738 FAX:03-5352-5737 Mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

トークシリーズ第4弾開催にあたって

現役の公共劇場の芸術監督たちが、芸術監督制度の在り方や課題等について自由に語り合う一般公開のトークイベント、「芸術監督公開トークシリーズ」。

その第4弾を、世田谷パブリックシアター、彩の国さいたま芸術劇場、KAAT 神奈川芸術劇場に続き、新国立劇場にて開催いたします。

今回は白井晃、近藤良平、長塚圭史、小川絵梨子が登壇。さらに、宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターを務める立山ひろみ氏をゲストに迎えて、「舞台芸術の入口をつくる～開かれた公共劇場をめざして」をテーマに語り合います。

各劇場が、舞台芸術に触れていただくきっかけを作るために、社会・地域に向けて発信しているプロジェクトを紹介しつつ、その事業が各芸術監督のどのような思いからスタートしたのか、どのような劇場を目指しているのか、劇場の所在地のどのような特性を踏まえての企画なのか等を語っていただきます。

進行役は、各芸術監督らを取材してきた、編集者・ライターの大堀久美子氏が務めます。

イベント概要

イベント名：〈ギャラリープロジェクト〉芸術監督公開トークシリーズ Vol. 4
—舞台芸術の入口をつくる～開かれた公共劇場をめざして—

日時：2023年7月16日(日) 17:00～18:30 [予定]

会場：新国立劇場 小劇場

定員：340名(入場無料・要予約・先着順)

[登壇者]

白井晃〈世田谷パブリックシアター芸術監督〉

近藤良平〈彩の国さいたま芸術劇場芸術監督〉

長塚圭史〈KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督〉

小川絵梨子〈新国立劇場演劇芸術監督〉

ゲスト：立山ひろみ〈宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター〉

[進行役] 大堀久美子〈編集者・ライター〉

[募集期間] 2023年6月21日(水) 10:00～

[申込方法] 下記劇場ホームページよりお申込みください。

https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_025861.html

(※情報解禁のタイミングでページを公開します)

[鑑賞サポート]

本事業は舞台上での手話通訳付きです。

手話通訳が必要な方は手話の見やすい席へご案内しますので、
お申込みフォームの該当欄にご希望の旨をご記入ください。

[お問合せ]

新国立劇場「ギャラリープロジェクト」受付係

TEL: 03-5351-3011 (代) 平日 11:00～18:00

[主催・企画制作] 新国立劇場

これまでの芸術監督公開トークシリーズ

第1弾 世田谷パブリックシアター新芸術監督就任イベントー公共劇場における芸術監督の役割を考えるー

日時:2022年4月19日(火)18:30～

会場:世田谷パブリックシアター

[登壇者]

白井晃(世田谷パブリックシアター芸術監督)

小川絵梨子(新国立劇場演劇芸術監督)

近藤良平(彩の国さいたま芸術劇場芸術監督)

長塚圭史(KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督)

[進行役]

成河

[主催]公益財団法人せたがや文化財団 [企画制作]世田谷パブリックシアター [後援]世田谷区

第2弾 芸術監督公開トークシリーズ Vol.2 ー公共劇場と地域性を考えるー

日時:2022年9月6日(火)19:00～20:30

会場:彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール

[登壇者]

白井晃(世田谷パブリックシアター芸術監督)

長塚圭史(KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督)

近藤良平(彩の国さいたま芸術劇場芸術監督)

ゲスト:白神ももこ(富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

オブザーバー:小川絵梨子(新国立劇場演劇芸術監督)

[主催・企画制作]公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団(彩の国さいたま芸術劇場)

第3弾 芸術監督公開トークシリーズ Vol.3 ー創作の場としての公共劇場ー

日時:2023年1月12日(木)19:00

会場:KAAT 神奈川芸術劇場<ホール>

[登壇者]

小川絵梨子(新国立劇場演劇芸術監督)

近藤良平(彩の国さいたま芸術劇場芸術監督)

長塚圭史(KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督)

ゲスト:桑原裕子(穂の国とよはし芸術劇場芸術文化アドバイザー)

オブザーバー:白井晃(世田谷パブリックシアター芸術監督)

[進行役]

成河

[主催・企画制作]KAAT 神奈川芸術劇場

登壇者プロフィール



白井晃(しらい・あきら)／世田谷パブリックシアター芸術監督

京都府生まれ。早稲田大学卒業後、1983～2002年、遊○機械/全自動シアター主宰。演出家として独立後は、ストレートプレイから音楽劇、ミュージカル、オペラまで幅広く手掛ける。世田谷パブリックシアター開場時より『こわれた玩具』、『アナザデイ』、『ラ・ヴィータ』、『ピッチフォーク・ディズニー』、『宇宙でいちばん速い時計』などを上演。世田谷パブリックシアター企画制作公演では、『偶然の音楽』、音楽劇『三文オペラ』、『ガラスの葉』、『マーキュリー・ファー Mercury Fur』、『レディエント・バーミン Radiant Vermin』ほか多数演出。第9・10回読売演劇大賞優秀演出家賞、05年演出『偶然の音楽』にて湯浅芳子賞(脚本部門)、12年演出のまつもと市民オペラ『魔笛』にて佐川吉男音楽賞、18年演出『バリーターク』(KAATとの共同制作)にて小田島雄志・翻訳戯曲賞などの受賞歴がある。14年4月、KAAT 神奈川芸術劇場アーティスティック・スーパーバイザーに就任、16年4月～21年3月、同劇場の芸術監督を務めた。22年4月1日、世田谷パブリックシアター芸術監督に就任。



近藤良平(こんどう・りょうへい)／彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

1968年、東京都出身、ペルー・チリ・アルゼンチン育ち。振付家・ダンサー／コンドルズ主宰。96年に自身のダンスカンパニー「コンドルズ」を旗揚げし、全作品の構成・演出・振付を手がける。世界約30ヶ国で公演を開催。彩の国さいたま芸術劇場では2006年からコンドルズ埼玉新作公演を行う。NHK総合『サラリーマンNEO』振演出演、NHK連続テレビ小説『てっぺん』、NHK大河ドラマ『いだてん』振付。0歳児からの子ども向け観客参加型公演「コンドルズの遊育計画」や埼玉県との共働による障害者によるダンスチーム「ハンドルズ」公演(09年～)など、多様なアプローチでダンスを通じた社会貢献にも取り組んでいる。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞受賞、第67回横浜文化賞受賞。22年4月より彩の国さいたま芸術劇場芸術監督。23年4月より多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科教授に就任。



長塚圭史(ながつか・けいし)／KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督

劇作家・演出家・俳優。1996年、演劇プロデューズユニット阿佐ヶ谷スパイダースを旗揚げし、作・演出を手掛ける(2017年に劇団化)。08年、文化庁新進芸術家海外研修制度にて1年間ロンドンに留学。11年、ソロプロジェクト・葛河思潮社を始動、三好十郎作『浮標』、『冒した者』などを上演。17年、新ユニット・新ロイヤル大衆舎を結成し、北條秀司作『王将』三部作を下北沢・小劇場楽園で上演。KAAT 神奈川芸術劇場での主な演出作品に『セールスマンの死』、『常陸坊海尊』、『王将』-三部作-、『近松心中物語』、『冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～』、ミュージカル『夜の女たち』、その他近年の主な舞台に、新ロイヤル大衆舎『緊急事態 軽演劇八夜』、『イヌビト～犬人～』、阿佐ヶ谷スパイダース『老いと建築』など。俳優としても映画『百花』などに出演。第55回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第14回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。21年4月よりKAAT 神奈川芸術劇場芸術監督。



小川絵梨子(おがわ・えりこ)／新国立劇場演劇芸術監督

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に『ART』『おやすみ、お母さん』『ダディ』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』など。新国立劇場では『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『星ノ数ホド』『OPUS／作品』の演出のほか、『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手掛ける。

[ゲスト]



立山ひろみ(たてやま・ひろみ)／宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター

宮崎県出身。劇作家・演出家。パフォーマンス演劇ユニット「ニグリノータ」主宰。大学卒業後、劇団黒テントに所属し演出家デビュー。同劇団を退団後、自身のユニットを立ち上げ舞台芸術の諸要素をセリフと等価値に扱い表現の可能性を模索している。

主な作品に、日生劇場ファミリーフェスティバル 2019・2021 音楽劇『あらしのよるに』、オペラシアターこんにゃく座オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』、デフ・パペットシアター・ひとみ『河の童—かわのわっぱ—』など。

宮崎県立芸術劇場ではプロデュース公演「新かぼちゃといもがら物語』『たのかんさあレンジャー』(作: 戌井昭人)、『幻視～神の住む町～』(作: シライケイタ)、『神舞の庭』(作: 長田育恵)、『火球』(作: 桑原裕子)を演出。アウトリーチ公演や地域に出ていくプロジェクトでの小作品も作演出している。

2015年10月宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター就任。

[進行役]

大堀久美子(おおほり・くみこ)／編集者・ライター

東京都出身。(株)角川書店に勤務後、フリーランスの編集者・ライターとなる。新聞や雑誌、書籍の企画・編集・取材・執筆の他、演劇(PARCO 劇場、シアターコクーン他)や映画などのパンフレット編集を数多く手掛けている。「尾上そら」の筆名で関連媒体への寄稿も多い。現在、新国立劇場演劇公演パンフレットに「日本の劇場」を連載中。文化施設から劇集団、表現者などの別なく国内各地に足を運び、幅広く取材・執筆活動を展開している。